

最終レポート

早川 カロリーナ 恵 中村



鹿田保育園の子どもたちと先生たちはとても親切です。

保育園では、牛乳箱、ペットボトル、カートンボックス、その他の材料など、多くのリサイクル材料を使用しています。

園内では、これらの素材から作った椅子（牛乳箱）、テーブル（牛乳箱）、子ども用おもちゃ、タオルホルダーを利用しています。教師が提案する活動は多様であり、一般的な活動のほか、子どもたちが非常に興味をそそられるような活動もたくさんしていました。



夏だったので、子どもたちが水遊びをする日がありました。プールで遊んでいる子どもたちのほか、残念ながら、参加できない子どもたちもいました。その場合、子どもたちは他の子どもたちと一緒に別のクラスで遊んでいました。

子どもたちが寝る前に、先生は彼らに話をします。また、子どもは約1時間ゆっくりと眠りますが、早く眠る子どももいれば、眠りが遅い子どもと眠らない子どももいます。





食事では、たくさんのおかずを食べなくてはなりません。そこで苦労したことは、食べるのに時間がかかりすぎる、または好きではないものがあるために食べたくない子どもたちがいることでした。

子どもたちはほとんどの時間遊びます。園内ではある程度の自由があります。遊びには、身体的または言葉による暴力や危険なことを除いて、大きな制限はありません。これらがあった場合だけ、教師が仲裁に入ります。教師が子どもたちと一緒に遊ぶこともあります。



子どもたちは、アイデアや想像力をブロック、絵、折り紙などで自由に自分を表現していました。彼らはおそれることなく表現しますが、他の子どもたちの考えや想像力を尊重しますが、ときには対立もします。彼らはお互いに話し合い、ジョークに対する想像力を共有し、収集します。

基本的に教師は子どもの想像に介入することはありませんが、子どもが想像をより膨らませることができるように、いろいろな提案をすることで支援することはあります。

これはブラジルの学校ではもっと必要だと思う点です。ブラジルの子どもたちには自由がありますが、日本の子どもたちに比べて非常に制限されていると思います。日本の幼児教育では、子どもが従うべき厳格なルールがありますが、その他のことはリベラルです。このことで、子どもたちは無限のアイデアと想像力を持ちます。これはブラジルと日本の学校の大きな違いの一つだと思います。

○9月

幼稚園児は表現の自由がたくさんあります。彼らはほとんどの時間をあそびに費やしています。リサイクル素材から物を作る、他のクラスの子どもたちと遊ぶ、または他のクラスの子どもたちと遊ぶ、といったあそびです。



子どもたちのリサイクル素材でのものづくりのひとつは、段ボールで作られたお化け屋敷でした。これはとても人気になり、そのクラスだけではなく、他のクラスの子どもたち、そして先生さえ、このアイデアを気に入りました。

また、今月は月見がありましたので、子どもたちは月への行き方を想像して、絵に描きました。月に行くための方法として、木製のはしご、虹、気球、その他の楽しいアイデアが描いてありました。



5歳と6歳の子どもが小学校に行く日がありました。

この目的は、小学校に行って小学生と交流することで、入学前の子どもたちの不安をなくすことです。



運動会のための練習もありました。練習中に泣いている子どももいましたが、リレーや綱引きに非常に興奮していました。他のクラスとのダンスパフォーマンスの練習もありました。

また、敬老の日があったので、子どもたちの祖父母が幼稚園に招待されました。祖父母は孫だけではなく他の子どもたちとも遊びました。私の研修期間中、子どもたちにポルトガル語を1日に2語程度教えました。



○10月

今月は運動会があり、子どもたちは一生懸命活動し、たくさん楽しみました。両親も一生懸命活動しました。



秋の到来とともに、ドングリなどを使った新しいゲームをしました。

子どもたちは祭りをし、それは初等で人気がありました。

避難訓練も受けました。ブラジルには避難訓練はないので、私には初めてのことでした。

子どもたちは少しバレーボールを学びました。ボールのかわりにバルーンを使ったので、あたっても痛くないバレーボールでした。



生活発表会に向けて、演奏する音楽を決めるためのクラス会議がありました。それぞれの楽器に分かれて練習して、そのあと全体で合わせて練習しました

演劇はオオカミと7頭の仔ヤギをすることになりました。誰がどの役をするのかはまだ決まっていないうでした。



鹿田保育園と鹿田幼稚園の5歳児の交流会をしました。

最初は小さな運動会で、次に小さな祭りをしました。

紙ふうせん、けん玉、手まりなどのむかし遊び体験を、小学生と交流しながらしました。

研修の最終日、サプライズで子どもたちは一人ひとりが作成した私の顔のカードをくれました。また、別のクラ

スの男の子が私に手紙をくれました。私はとてもびっくりして、うれしかったです。



研修の中で一番印象的だったのは、子どもたちがとても友好的だということです。私は外国人なので、子どもたちが怖がったり恥ずかしがり屋になったりするのではないかと心配しましたが、そうではなく、むしろ興奮して喜んでいました。彼らは私が外国人であるかどうかは気にせず、自然にしてくれました。子どもたちは何かをしたり、作ったり、遊んだりするとき私を誘ってくれて、嬉しかったです。また、子どもたちは日本以外のことについてもっと知りたいと思っていたようでした。



研修で困難だったことは、二つあります。

一つ目は、子どもたちの名前を記憶することです。私はいつも子どもたちの名前を掲示することに苦労しました。性別を区別できない子どもの名前があり、覚えるのが少し困難な名前がありました。

二つ目は、子どもたちの話し言葉が難しかったことです。子どもたちの多くは若者の言葉を使っています。私が慣れている日本人は少し年上ですので、子どもが何について話



しているのかを理解することに私は苦労しました。言語を理解するのはとても難しいことです。

今回の研修で学んだ最も大切なことは、子どもたちの自主性を大切にする教育方法です。例えば、子どもたちが問題を解決したいときや、何かに挑戦するときは、まずその方法を子どもたちがグループで一緒に話し合います。そして自由にやってみることができます。子どもたちが解決できない時だけ先生が意見を言って助けます。

ブラジルの幼稚園では、子どもたちが自由に自分を表現する機会が少ないと感じます。日本と比べて、自己表現よりも学習する時間のほうが長いからだと思います。すべての教育機関がそうだというわけではありませんが、残念ながら自主性を大切にすることはあまりありません。両親から子どもへの教育についても、同じです。

私はブラジルの子どもたちに、両親や教師に頼らず、自分で考える自主性をもつように教えたいです。いろいろな個性のある子どもたちのために新しい教育方法を作り上げる必要があると思います。早い時期から勉強に集中することを強制する必要がないことを、みんなにわかってもらうことが私の夢の一つです。私はそれが非常に難しいことはわかっています。しかし、子どもの想像力にふたをする必要はないと思います。

この研修の機会を与えてくれたことにとても感謝しています。私は知らないことが多く、まだ経験も少なかったため、指導してくださった先生はたくさんの忍耐が必要だったと思います。研修をとおして、多くのことを学ぶことができました。